

奨励賞



設計者

保科 章

東京建築士会、保科章建築設計室 一級建築士事務所

寺院・仏閣(宗教施設)

神奈川県藤沢市西富

遊行寺地蔵堂

構造・階数

木造

地上1階

敷地面積

43,748.33㎡

建築面積

73.30㎡

延床面積

39.74㎡

竣工

平成26年6月9日



A

選評

建物は時宗総本山「遊行寺」の境内に建つ地蔵堂の再建である。

御堂は方形屋根をもつ正方形平面をなすのが普通であるが、この地蔵堂は3間×4間の長方形平面で、国内でも珍しい縦長の平面を用いている。外観を低く抑え、屋根は方形で伝統的な形態を継承し、こじんまと美しく境内に佇んでいる。正面は両サイド(四隅)を耐震壁で固め、入り口の引き分け戸と欄間が、内部の地蔵堂の安置を見え隠れさせている。

内部空間は堂内に天井を張らず、壁際の化粧軒垂木や小屋裏の枯木などを見せる手法がとられている。設計者は「野物」と「化粧」材の共存を図り、小屋裏を内部空間化させ、小さなお堂に小宇宙のような拡がりを感じさせる試みをしている。2mの軒の

出を確保するための枯木は、化粧として見せるために方杖を添え、トラス的な構造とし、内部への侵入を少なくし、内部空間を自由にすることに成功している。

長方形平面に対して架けられた方形屋根の小屋伏せは、1段目に架けられた大梁の火打梁の上に柱を乗せている。続いて2段目の小屋梁に隅木を架け、そこから3段・4段・5段の小屋梁を組み上げている。下から見上げると、小屋組が曼荼羅図のように見えてくるのである。それは正統な小屋組とは違い、木構造の在り方として少し疑問が残りながらも、密教寺院がもつ内部空間の雰囲気があり、新しい空間をめざした試みは評価できる。

(竹原義二)



B



C



E

- A 外観正面(夜景)
 - B 内部見上げと地藏
 - C 地藏堂と本堂・遠景
 - D 内観
 - E 軒見上げ(建物側面)
- 写真撮影...小川重雄



D

